



ことしはうしどし

わらのうし

内田 莉莎子 文 ワレンチン・ゴルディチューク 絵 福音館書店 Eーゴ

あるひ、おばあさんはおじいさんに、わらでうしをつくってくれといいました。おじいさんはいわれたとおりにわらでうしをつくり、よこっばらにタールをぬりました。おばあさんはわらのうしをつれて、おかにいきます。おばあさんがいねむりをしていると、くまがやってきましたが、わらのうしにくっついて、はなれられなくなりました。

はなのすきなうし

マンロー・リーフ おはなし ロバート・ローソン え 光吉 夏弥 やく

岩波書店 Eーロ

むかしすぺいんに、木のしたにすわってはなのにおいをかいでいるのがすきな、ふえるじなんどというこうしがいました。ふえるじなんどはどんどんおおきく、つよいうしになりました。ある日、ふえるじなんどがはちにさされて、あばれまわりました。それをみたうしかいのおとこたちは、とうぎゅうにだそうと、ふえるじなんどをまどりーどにつれていきます。

モーモーまきばのおきやくさま

マリー=ホール=エッツ ぶん・え やまのうち きよこ やく 偕成社 Eーエ

うしがだれかにくさをごちそうしてあげたいとおもいました。そこへかけすがやってきて、おきやくさまをよんできました。モーモーまきばには、たくさんのどうぶつたちがやってきました。そしてみんなで、うたをうたったり、おにごっこをしたりします。

くいしんぼうのはなこさん

いしい ももこ ぶん なかたに ちよこ え 福音館書店 Eーナ

あるおひやくしょうのいえにこうしがうまれ、はなこというなまえがつけられました。はなこはわがままなこうしで、ごちそうばかりたべていたので、むくむくおおきくなっていきました。はるになると、やまのぼくじょうには、たくさんのこうしがあつまります。こうしたちがちゃんばらをするとはなこがかち、みんなははなこのいうことをきくとやくそくしました。

小さい牛追い

マリー・ハムズン 作 石井 桃子 訳 岩波書店 949-8

谷あいのランゲリユードという名の農場には、四ひきの牝牛がいました。その四ひきを、四人の子どもが一匹ずつもっています。年上のふたりの男の子、オーラとエイナルは春になると、山の上の牧場に行って、はじめての牛追いをします。ふたりはこの仕事をとてまたのしみにしています。

お父さん、牛になる

晴居 彗星 作 福音館書店 913-8

月曜日の朝、和室でお父さんが牛になっていた。ぼくとお姉ちゃんとお母さんは、その牛がお父さんとはすぐに信じられなかった。お父さんはあきれほど食べ、あきれほどフンをする。家に友だちなんて呼べないし、お父さんの会社からも電話がかかってくる。このままずっと、お父さんが牛だったらどうしよう？

みらくるミルク

中西 敏夫 文 福音館書店 648-ナ

人間にミルクをくれる代表的な動物はウシです。ウシは、今から8000年ぐらい前から家畜として利用され、古代文明をきづく力となりました。そして人々はそのミルクを使って、ヨーグルトやバターなど、いろいろな乳製品を作っていました。

「こどもしんぶん」で紹介している本は

加古川市立中央図書館 ☎ (425-5200)

加古川市立加古川図書館 ☎ (422-3471)

加古川ウェルネスパーク図書館 ☎ (433-1122)

加古川海洋文化センター図書室 ☎ (436-0940)

にあります

